



研修員のマークさん(左)、
ドルジさん(右)



世界のこと、もっと知りな!

もしり

Moshiri

世界を変えるための17の目標: 持続可能な開発目標 (SDGs)

~SDGsで世界を元気に、日本を元気に、道東を元気に。その主役はあなたです!~

2015年9月に開催された国連サミットにて、国際社会が2030年までに貧困をなくし、持続可能な社会を実現するための重要な指針として、17の目標(ゴール)が持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)として設定されました。

SDGsは開発途上国だけでなく、先進国も取り組むユニバーサル(普遍的)なものです。日本国内でも、SDGs達成に向けた取り組みが、民間企業や各種団体、地方自治体によって広がっています。

JICA北海道(帯広)は様々な取り組みを通じて世界や日本、そして道東のSDGs達成に貢献しています。今回の「もしり」ではその一部をご紹介します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

<p>1 貧困をなくそう</p>	<p>2 飢餓をゼロに</p>	<p>3 すべての人に健康と福祉を</p>	<p>4 質の高い教育をみんなに</p>	<p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p>
<p>6 安全な水とトイレを世界中に</p>	<p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>	<p>8 働きがいも経済成長も</p>	<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>	<p>10 人や国の不平等をなくそう</p>
<p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	<p>12 つくる責任 つかう責任</p>	<p>13 気候変動に具体的な対策を</p>	<p>14 海の豊かさを守ろう</p>	<p>15 陸の豊かさを守ろう</p>
<p>16 平和と公正をすべての人に</p>	<p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p>			

2 飢餓をゼロに

【課題別研修】
農業情報活用のためのICT技術向上
~実地への応用に向けて~

☑ 詳しくは2面をチェック ▶

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

【中小企業海外展開支援事業】
コンクリートテスター(CTS)を用いた道路橋の
点検技術、橋梁管理データ整備に関する
案件化調査

☑ 詳しくは3面をチェック ▶

10 人や国の不平等をなくそう

【草の根技術協力】
フードバレーとかちを通じた地域ブランドと
ハラル対応による産業活性化および
中小企業振興プロジェクト

☑ 詳しくは3面をチェック ▶

12 つくる責任 つかう責任

【イベント】
国際フェスタ in とかち 2018

☑ 詳しくは3面をチェック ▶



世界から日本へ
研修員
eye
アイ

JICA北海道(帯広)では、開発途上国から来た多くの研修員が、
自国で必要とされている知識や技術を学んでいます。



DORJI Thinley さん

ドルジさん

- 出身: ブータン
- 研修コース: 「農業情報活用のためのICT技術向上～実地への応用に向けて～」

Q.ブータンはどんな国ですか?

ブータンはとても小さな国でインドや中国といった大国に挟まれています。ブータンの国には伝統的な文化や独自の生活スタイルなどの誇らしいものがあり、すばらしい国王制度もあります。国王を中心に文化や伝統を守ろうという強い心を持った国です。

Q.JICAでの研修の目的と内容は?

農業において、生産量や農作物の輸出入の管理法について学びにきました。ブータンでは古い管理法を用いているのでICTを通じた管理法を学び、よりシステムティックに管理できるようにし、国に還元したいです。

Q.日本での生活はいかがですか?

日本はスケジュール通りに動いており、とても規則正しいと感じます。ブータンではちょっとしたリラックスした時間があるのですが、日本では全てがきちっと決まっています。すばらしいなと思いました。

Q.ブータンの方からみた日本人の印象は?

とても勤勉で礼儀正しい印象です。そして、質問に対して答えがわからなかったとしても調べてくれて必ず答えてくれます。

Q.日本で経験してみたいことは?

日本の民家に行ってみたくです。そこで日本の人がどのように一日を過ごしているのか観察し、日本人の規則正しさがどこからきているのかを知りたいです。

འཇུག་པོ་འབྲེལ་བའི།
(クズザンポー)
ツンカ語でこんにちは



研修コースを
支えてくださっている
方をご紹介します

帯広畜産大学
環境農学研究部門 農業環境工学分野
大規模農業機械系 教授 **佐藤 禎稔**

Q1 国際協力 (JICA研修員受入事業) に携わるようになったきっかけを教えてください。

専門は農業機械学であり、JICA北海道帯広センターが開設される以前から農業機械のコースに携わって来ました。その後、ICTコースを担当するようになり、かれこれ25年ほどのお付き合いになると思います。

Q2 どのような想いでJICA研修にご協力いただいていますか。

日本を代表する十勝の大規模先進的農業を支える農業技術を途上国の研修員に紹介できるということが大変光栄に思っています。また、いつの日か自国で利用されている研修成果の活用を見てみたいと思っています。

Q3 思い出に残っている研修のエピソードを教えてください。

道外研修で研修生とカラオケボックスに行き、大いに盛り上がり、その後の研修が極めてスムーズに行えたこと、また大学で学生を交えた実習やバーベキューなどが印象に残っています。

Q4 今後、このコースをどのようにしていきたいですか。

スマート農業は今後の農業生産においてキーテクノロジーになります。この第3の農業改革をJICA研修を通して世界の農業生産に紹介し、食料問題や食の安全などに貢献できるようにさらにレベルアップしていきたいと思っています。



世界各地で
がんばる
ボランティアの
現場から



ドミニカ共和国ならではの距離感

青年海外協力隊

菊池 健介 さん

- 出身地: 津別町
- 派遣国: ドミニカ共和国
- 職種: 体育
- 派遣期間: 2017年1月～2019年1月



こんにちは。日本との時差-13時間、距離にして13,213km、カリブ海に浮かぶドミニカ共和国の東部に位置するLa Romana県にあるNGOが運営するdel Niñoという施設で活動しています。

1年が経ち、活動に関して目に見える成果としては、アメリカ合衆国から運動靴の支援が山ほど届いたことである。靴は消耗品ではあるが、怪我予防の観点から日本における体育でも大切にされていることで、僕自身にとっても譲れないところであった。靴が届き子供達に手渡されるのを見て、我が子を見守る親のように心にジーンときた。それはボランティアとしてではなく、親同然に愛情を持って子どもに接するこの国の素敵な文化が、僕にも知らないうちに染み付いていたのだろう。

※菊池さんのボランティア活動については帯広センターHPで詳しくご紹介しております。



マラソンイベントで活動先の運営資金のためにTシャツやグッズの販売



子ども達のダンス用衣装

20年越しのインドネシア訪問

～元JICA短期派遣専門家・根本國夫さんからの報告～

昨年12月10日、インドネシアの地を20年ぶり3度目として踏んだ。最初と2回目は、1998と1999年「大豆種子増殖・研修計画」事業における短期派遣専門家としてであった。今回訪問したのは、東ジャワ州都スラバヤより約100キロ離れたマラン市にある原種農場で、当時のカウンターパート5名も、死去或いは民間会社に転職と、残っていたのは来年定年を迎えるスラムツ氏のみであった。しかし、供与された機材も当時のままで、丁寧に保守整備がなされており、いまだに時々使用しているとのことであった。当時指導した技術が、脈々と受け継がれ、彼ら自身で事業を推進している姿を、自分の目で確かめることができ、本当に良かった。合掌!



イベントレポート 高校生国際協力体験プログラム

～冬休み編～



1月6日(土)国際協力について楽しく学ぶことを目的として、高校生国際協力体験プログラムを実施しました。今年は北見市や標茶町などの遠方からも多くの学生が参加してくれました。冬のテーマを「共生・共存」として、10年・20年後の未来を見据えた上での現在の国際関係について考えてもらいました。当日は帯広畜産大学の学生にも協力してもらい授業形式からグループワーク、さらにロールプレイングまで様々な形で世界の現状を体感し、多くのことに挑戦してもらいました。プログラムを終えた学生は、「自分の目で途上国を見に行きたい。」などと海外への興味・関心をより一層高めていました。今後はそれぞれより深く学んでいただけることを期待しています。



世界を身近に 「国際フェスタinとかち2018」



2月10日(土)、11日(日)の両日「国際フェスタinとかち2018」を帯広センターと森の交流館・十勝で開催いたしました。今年はおよそ1300名の方に来場いただき、笑顔溢れる2日間となりました。センターではUNHCRさんにご協力いただき「ナイス・ピープル」を上映しました。そしてレストラン「おびくく」でコラボレーション企画として提供した「ソマリア料理」が大変好評でした。毎年恒例のフェアトレードコーナーでは来場者がフェアトレードについて学びながらお買い物を楽しんでいました。キッズコーナーの「パステルアート」ではご家族みなさんが簡単にできるアートとして大いに盛り上がりました。来年も十勝の方々が楽しく参加いただける、魅力ある「国際フェスタ」を目指しますが、まずは夏のイベント「世界のともだち」でお待ちしております。



草の根技術協力事業進捗報告



JICA草の根技術協力事業への参加がきっかけで、イスラム教の戒律に則ったハラル商品の開発を進めてきた(株)とかち製菓が、ハラル認証(マレーシアJAKIM認証)を取得しました!

「日本に来て食べられるものが少ない」というムスリムの方の声に応え、大福(よもぎ・白・赤・豆・きな粉)、白玉ぜんざい、わらび餅(きな粉・抹茶)の計8品で認証を取得。これらの商品にはJAKIM認証マークが表示されます。

今年3月より外食やホテル等向けに業務用のよもぎ大福と豆大福を発売し、順次拡大予定。十勝の素材を使った本物の和菓子を安心して食べて欲しい、そんな熱い思いが詰まっています。



中小企業海外展開支援事業

～案件化調査～

採択企業が決定しました。

道東地域からは雄武町の日東建設株式会社が採択されました。タジキスタンへ同社が誇るコンクリートテスターの導入を図ります。タジキスタンでは、コンクリートの橋や道路などが適切に管理されていないため、老朽化・劣化が進み、大事故になりかねない状況が続いています。同社の「コンクリートテスター」は、建造物のコンクリート強度を破壊せずに測定できる装置で、事故を未然に防ぐために活躍する技術です。北海道で培ってきた技術や経験をもとに、同じく寒冷地特有の課題を抱えるタジキスタンでの事業展開を図ります。本調査では、同社の技術をODA事業に活用するための情報収集や、ビジネス展開の計画策定などを行います。



コンクリートテスター本体



コンクリートが劣化した橋の一部

JICA北海道(帯広)図書資料室「おびくっく」

おすすめ図書

『アフリカローズ 幸せになる奇蹟のバラ』

●著者/萩生田 愛 ●発行所/株式会社ポプラ社

人々を魅了する鮮やかな色彩。アフリカの大地を彷彿とさせる力強さ。そんなケニアのバラを贈り物に…。贈る人、贈られる人みんなが幸せになるバラの販売を始めた著者。バラを贈った人たちの心温まるエピソードに始まり、販売店をオープンさせるまでの経緯、ケニアで感じた想いなどを美しいバラを写したページと共に送る1冊です。

開室時間 火曜日から日曜日 午後1時～午後6時30分

閉室日 月曜日・祝日・年末年始

お問合せ TEL/FAX 0155-41-4100



JICA北海道(帯広)レストラン

おびくっく

4月2日～6月30日までの期間限定メニュー

営業時間

昼 / 11:30～14:00
夜 / 17:30～20:30
(ラストオーダー 30分前、不定休)



ワールドランチ 中南米編800円

世界の料理が食べられるお得なセット! ミックス豆と鶏肉をクリームチーズで和え、パクチーとスパイスでアクセントをつけ、トルティーヤで巻いて焼いた「ミックス豆とチキンのプリート」。牛挽肉とレッドキドニービーンズをトマトとチリで煮たトマト煮込み料理「チリコンカン」チーズを振りグラタン仕立てに。牛肉やベーコンをフェジョン豆で煮たブラジルの国民食「フェジョアーダ」ご飯と混ぜてお召し上がり下さい。スープ付



高石紗代子

「愛の国から幸福へ…」

そんな甘い名所があるからか、人も温かく、スイーツも美味しい。そんな故郷へ戻って参りました。

この美食な街の出身だけに「味にうるさい」とよく呆れられてます(笑)

さて「JICAって私も利用できるの?」と思われる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

答えはもちろん「お気軽に!」

本紙にも紹介されているレストランなんてオススメです。私もよく出沒します。春から再開するテラス席では、味もしかり、白樺林に囲まれた景色も「絶品」なのです! “美食家”の皆さまにも、きっと気に入ってもらえるのではないのでしょうか。



What's new!

JICA北海道(帯広) 発
インフォメーション

お問合せ

TEL.0155-35-1210

JICAボランティア 募集説明会 in帯広

ボランティア募集説明会を5月26日(土)帯広商工会議所で開催いたします。26日は二部制になっており、1回目は11:00～13:30、2回目は14:30～17:00となります。各回定員20名で予約制となります。ご予約やプログラムの詳細はJICAボランティアのHPをご覧ください。



帯広商工会議所

〒080-8711
帯広市西3条南9丁目1
帯広経済センタービル5階
TEL/0155-25-7121

JR帯広駅より…徒歩5分、車で2分

JICA北海道(帯広) 広報誌「もしり」リニューアルのお知らせ

皆さまにご愛読頂いてきました「もしり」ですが、この度リニューアルすることとなりました。紙媒体でのお届けは、今号が最後となります。これからは、皆さまのパソコンやスマートフォンに「もしり」電子版をお届けします。北の大地から発信する、国際協力の「今」を、引き続きご愛読ください。

●「もしり」電子版の購読方法

JICA北海道(帯広)のメールマガジンに、皆さまのメールアドレスをご登録ください。

▶ 「もしり」電子版の購読希望はこちら

<https://www.jica.go.jp/obihiro/mail/index.html>



▶ 「もしり」のバックナンバーはこちら

<https://www.jica.go.jp/obihiro/office/pr/index.html>

